

【社会科・小学校4年・「わたしたちのくらしとごみ」】

ねらい：人々の健康や生活環境を支える廃棄物を処理する事業について、ごみを減らして環境を守るために自分たちにできる取組を話し合う活動を通して、地域社会の一員として実践できることを選択・判断することができる。

学習支援ソフト

1 本時のめあての確認



T:もしこのままごみが処理できないと、どんなことが起こるかな？

C1:自然が汚れる！

C2:うめ立て地にうめればいい。

T:でも、うめ立て地がいっぱいになったらどうしたらいい？

C3:困る！

T:じゃあ、**ごみを減らすためにできる取組を決めよう。**

学習支援ソフト

2 活動の見通し



児童が円滑に活動に取り組めるよう、活動の手順・話合いの観点について、教師が板書をもとに説明します。

T:前の時間にみんなが考えた取組について、「**自分たちでできるか**」という視点で班で話し合っ、一つに決めてね。

出かける時は水筒を使う。

これはできそう！



ペットボトルの再利用とどっちがいいんだろう。

児童たちは、各班の「広場」に入り、お互いのごみ削減アイデアカードについて話し合います。話し合いののち、「自分たちにもできそうだ」と感じた取組に対し、**拍手ボタン機能**を用いて「拍手」を付けました。

学習支援ソフト

4 各班の「広場」の共有



発表の前に、各班のごみ削減アイデアカードを「拍手」の多い順に並べ替えさせました。こうすることで、各班の主要な意見が見取りやすくなるとともに、「**拍手**」の少ない意見を取り上げることで、児童に**新たな気付きを促す**こともできます。

5 実践したい取組の決定



挙げられた取組の中から、自分が実践してみたいことを一つ選び、理由とともにワークシートに記入しました。さらに、書き終えたワークシートを撮影し、クラスの「広場」に送信することで、それぞれの考えを共有することができました。

学習支援ソフト

6 振り返り



買う前に本当に必要か考える。

授業の終わりに、自分が選んだ取組について発表しました。

T:**どうしてそれを選んだの？**

C:今まではちゃんと考えられていなかったから、これからは考えていきたい。

教師が問い返すことで、これまでを振り返り、今後に生かそうという気持ちをもつことができました。